

藤屋侃二さん(68) 下松市幸ヶ丘 元KRY取締役ラジオ局長

2009年(平成21年)2月19日(木)

4



### 豚を屠る<sup>ほふ</sup>

山岳少数民族のモンが住む、タイ北部の山奥にあるナムカー村には、キング・プロジェクト(タイ国王の施策)によるモン族支援のキャンプ・ロッジが五棟建てられている。山も国王のものなのだ、ロッジの収入はモンの人たちのものになる。

つて有り難いことで、彼らは国王を心から尊敬している。

まだ霞がかかる朝六時、スピーカーの大きな声で目が覚める。「きょうはロッジ周辺の清掃をする。そのあと豚を屠る。ロッジには日本から六人の客が来ている」という知らせだったらしい。

一泊千五百円、食事は一日四百五十円ほどである。現金収入がほとんどない、貧しい山奥のモンの人たちにと

は集会所・幼稚園などがある。集会所の横の木に一頭の豚がつかれている。我々を歓迎

するために豚を屠ってくれるのである。シャンティ山口の佐伯事務局長によるとモンの人たちは黒豚を好み、豚を屠って食べるのは最高のもてなしで、正月や祝事の際の特別な料理という。豚を屠れることが男の一人前の証で、女性は鶏をさばくことである。

ロッジ周辺の清掃も終わり、いよいよ豚の解体の始まりだ。前後の足をロープでしばって横倒しにすると豚は大きな悲鳴をあげる。殺されるのがわかるのだろう。

インドで一頭の豚が屠られる時、その豚の悲鳴を聞き、近くの豚が暴れ出したという話を聞いたことがある。何とも切ない、甲高い叫び声である。

逆さにつるされ、のどをナタのようなナイフで突き刺すと、血が

ドッと流れ出る。この血も大切な食べ物で、またたく間にバケツ一杯になる。

そのあと熱湯がかけられ、黒い豚の皮はきれいに除かれ、白い豚ふんがつまっている腸がきれいに洗われ、捨



聞くに耐えない悲鳴をあげる豚

てるところは何一つない。白豚に比べて黒豚は油分が少なく、肉が多くておいしいという。夜の歓迎の祝宴は豚づくし。山奥の貧しいモン村では、豚以外にご馳走として出すものがないと言った方が正確かもしれない。豚肉を好まない者には受難である。日ごろからあまり食べないのに、解体するのを見ては食べる気になれない。モンの人たちに悪いので、一口だけモン焼酎で流し込む。おかげで翌朝ははいた。

胃液以外にはくものがなく苦しかった。それでもモ帳片手に豚の値段を聞くとき、子豚が一頭千五百円前後、



解体する村の青年

大人の豚は一万円前後という。豚を屠るのを見せるのを野蠻と思われてはモンの人に失礼になる。日ごろは見せることはなく、我々が希望したので見せてくれたのである。

五十世帯、三百人のナムカー村は豚肉は別として私を引きつける。今の日本にはない、人と人との間にぬくもりを感じるのである。

(元山口放送取締役ラジオ局長)